

# 「旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)」について

鎌倉市景観重要建造物

平成 22 年 9 月 1 日 指定

旧和辻邸は、哲学者の故和辻哲郎氏が江戸後期の民家を東京都練馬区において居宅として使用していたものを、川喜多長政・かしく夫妻がここに移築したもので、夫妻はこの建物を海外から訪れる映画監督や映画スターたちを迎える場としました。平成 6 年に遺族から鎌倉市へ寄贈されました。

旧市街地の谷戸の高台に建つこの建物は、背後の山並みと<sup>さん が わ ら ぶ</sup> 棧瓦葺きの屋根が調和した和風建築で、地域を代表する魅力的な景観を形成していることから、平成 22 年 9 月 1 日に景観重要建造物※に指定されました。

なお、同時に寄贈された隣接する母屋は、夫妻の業績を永く後世に伝えるとともに、本市における映画文化の発展に役立てることを目的とした川喜多映画記念館へと建て替えられ、また、鎌倉らしいたたずまいを象徴する板塀も改修し、記念館の敷地内には遊歩道も整備しました。



旧和辻邸書齋



旧和辻邸居間

旧和辻邸の内部は太い梁や柱に支えられた土間や居間があり、民家独特の風情が感じられます。和室は和辻哲郎氏が書齋として使っていた部屋で作りつけの書棚があり落ち着いた雰囲気です。また、居間の隅には炉が切れ、畳の上にはテーブルと椅子が置かれるなどして、外国からの客人を日本情緒豊かな場所でもてなしたことを物語っています。

## ※景観重要建造物とは

景観法（平成 16 年制定）に基づく制度で、地域の景観上重要な建造物を市長が指定し、地域の個性ある景観づくりの核としてその維持、保全及び継承を図るものです。

### 建物概要

所在地：雪ノ下二丁目

構造：木造平屋建て

屋根：<sup>さん が わ ら ぶ</sup> 棧瓦葺寄棟

規模：建築面積 145.86㎡



### 【問い合わせ】

〒248-8686（住所は省略できます） 鎌倉市御成町 18-10 鎌倉市共生共創部文化課

電話 0467-61-3872

FAX 0467-23-8700（総務課扱い）

E-MAIL bunka@city.kamakura.kanagawa.jp

## 川喜多長政・かしこ夫妻の紹介



川喜多夫妻（旧和辻邸書齋にて）

### 川喜多長政さん

明治 36 年東京生まれ。大正 12 年北京大学文学部を中退し、ドイツに留学。留学中に映画の持つ国際交流の意義を悟り、帰国後、昭和 3 年に東洋と 西洋の和合を意味する「東和」と名付けた東和商事を設立し、ヨーロッパ映画の輸入に従事。「アスファルト」「自由を我等に」等をわが国に紹介。昭和 14 年、国の要請によって中華電影の実質的な経営者である副社長に就任、直接的には軍に協力せず終戦を迎えた。戦後、昭和 26 年東和映画を設立し社長に就任、かしこさんと二人三脚で映画による国際交流に尽力。以後、東宝東和会長、東宝取締役、大沢商会取締役、外国映画輸入配給協会会長、日本映画海外普及協会副会長を歴任。昭和 56 年 5 月に 78 歳で逝去。

### 川喜多かしこさん

明治 41 年大阪生まれ。フェリス女学院を卒業後、昭和 4 年東和商事に入社。翌年社長の長政さんと結婚。長政さんとともにヨーロッパ映画の輸入に 携わり、「制服の処女」「第三の男」「禁じられた遊び」等、数多くの名作を紹介するとともに、各地の国際映画祭で審査員を務め、映画を通じた国際交流に貢献。フィルムライブラリー助成協議会（のちフィルムライブラリー協議会と改称）の設立者、財団法人川喜多記念映画文化財団の創始者、国立フィルムセンター 設立運動の推進者（昭和 45 年同センター設立）として、わが国の映画文化の振興に尽力。これらの業績から、芸術選奨、菊池寛賞、フランス文芸勲章、同国家功労賞などを受賞。平成 5 年 7 月に 85 歳で逝去。